CG-WLCB108GM

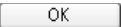
詳細設定ガイド

Y613-08617-02 Rev.A

はじめに

このたびは、「CG-WLCB108GM」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。

コレガ製品に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせいたします。

http://www.corega.co.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

記号	意味
警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

表記	意味
本商品	CG-WLCB108GM を指します。
「　」−「　」−「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
［　　］	［　　］で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → ［OK］

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows®……Microsoft® Windows® operating system

Windows® XP……Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000……Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

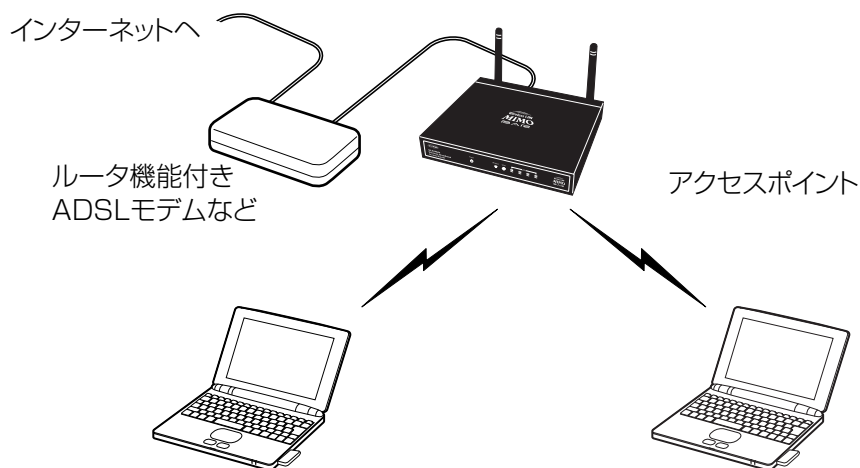
本商品の使い方について

接続方法を決めよう

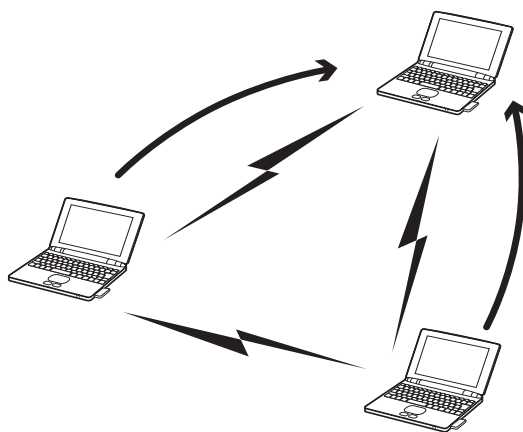
本商品は、IEEE802.11g、b規格に対応した無線LAN（ワイヤレス）通信アダプタです。IEEE802.11g、b規格に対応した無線ルータや無線アクセスポイントと組み合わせることで、無線ネットワークを構築することができます。また、本商品は「Ad-Hocモード」にも対応しており、同じ規格の無線アダプタ間との通信も可能ですので、次に紹介する例を参考にして、本商品とパソコンの接続方法を決めてください。

本商品は、各社の無線LAN機器との間で相互接続性を確保していますが、個別製品の接続可否については、お使いの機器の製造・販売元にお問い合わせください。

■アクセスポイントを使ってインターネットに接続する～Infrastructure

「インターネット接続を複数台のパソコンで共有したい」、「ケーブルなしでインターネットに接続したい」といった場合には、次の図のようにアクセスポイントを使ってインターネット接続します。この際、無線LAN機器のモードは「Infrastructure」モードに設定します。また、既にケーブルを使ってネットワークが構築されている環境に、無線LANを追加するときなどもこのモードにします。本商品の工場出荷時の設定は、「Infrastructure」モードに設定されております。

メモ **アクセスポイントは別途ご購入いただく必要があります。**

■パソコン同士でファイルのやりとりをするだけなら〜Ad-Hoc

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要となり、無線LANアダプタを搭載したパソコン同士で直接通信をします。この際、無線LAN機器のモードは「Ad-Hocモード」に設定します。設定方法については、「PART2 ネットワークに接続しよう」の「「Ad-Hoc」モードで通信するには」（P.18）をご覧ください。

■無線LANのセキュリティ対策について

無線LANでは電波を使って通信を行うため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことを防ぐため、本商品は次のようなセキュリティ機能を用意しています。

・通信グループ化をする
　ESSIDを設定する

・通信内容を暗号化する
　WEP（暗号キー）を設定する
　WPAを設定する

本商品はJUMPSTARTに対応しておりません。JUMPSTARTで構築されている無線ネットワークへ接続する場合は、無線ルータまたは無線アクセスポイントのJUMPSTARTを無効にしてください。JUMPSTARTを無効にする方法は、お使いの無線ルータまたは無線アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

本商品を使わないときは…

■本商品をパソコンから取り外す

本商品をパソコンから取り外す場合は、次の手順で取り外してください。本商品を正しい手順で取り外さない場合、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- **本商品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。**
- **次にご紹介する操作を行うと、実際に本商品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本商品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本商品を取り外してから再び取り付けてください。**

1. 画面右下のタスクトレイ（通知領域）上のをクリックし、「CG-WLCB108GM を安全に取り外します」をクリックします（ご使用の OS により、下線部の表示は、中止や停止するという意味の内容になります）。

2. 安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。

3. 本商品を PC カードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。再度使用する場合は、本商品を PC カードスロットに取り付けると使用できます。

■ソフトウェアを削除するには

本商品用のソフトウェアをパソコンから削除する方法を説明します。

●本商品のユーティリティとドライバをアンインストールする場合

1 画面右下の を右クリックし、「終了」を選択します。

2 「本商品をパソコンから取り外す」の手順に従って、パソコンから本商品を取り外します。

3 「スタート」－「すべてのプログラム」－「CG-WLCB108GM」－「無線 LAN モニターの削除」（Windows 2000 では「スタート」－「プログラム」－「CG-WLCB108GM」－「無線 LAN モニターの削除」）をクリックします。

4 「ファイルの削除の確認」が表示されます。

5 ［OK］をクリックします。

6 ソフトウェアの削除が行われ、しばらくすると「InstallShield Wizard の完了」が表示されます。

7 ［完了］をクリックします。

以上でソフトウェアの削除は終了です。

PART 2 ネットワークに接続しよう

ネットワークの設定をする

無線LANでデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要になります。

■インターネットに接続するとき

本商品を取り付けたパソコンでインターネットに接続するにはTCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

● Windows XP の場合

設定を変更するには「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンしてください。

1 「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。

2 「ネットワーク接続」をダブルクリックします。

メモ **「ネットワーク接続」が表示されていない場合は、画面左側の「クラシック表示に切り替える」をクリックしてください。**

3 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 「全般」タブをクリックし、次のように設定します。

① DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

② DHCPサーバ機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

お使いの環境によっては、この他にもネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

6 ［OK］をクリックします。

7 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

8 パソコンを再起動します。

以上でTCP/IPの設定は終了です。本商品と接続するネットワーク機器の設定につきましては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

● Windows 2000の場合

設定を変更するには「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザ名でログオンしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境によって異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

4 「全般」タブをクリックし、次のように設定します。

① DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

② DHCPサーバ機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

メモ **お使いの環境によっては、この他にもネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。**

5 ［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

7 パソコンを再起動します。

ネットワークに接続する

ネットワークに接続するには、次の手順を行ってください。なお、接続するネットワークにセキュリティの設定がされている場合、セキュリティの種類別に接続方法が異なりますので、お使いの環境にあった接続方法をご覧ください。

■無線LANのセキュリティについて

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入される恐れがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

●本商品で設定できるセキュリティ機能

【ESSID（Extended Service Set IDentifier)】
無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【WEP（Wired Equivalent Privacy)】
通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bitの2種類から任意で暗号キーを作成します。

【WPA（Wi-Fi Protected Access)】
通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。

【WPA2（Wi-Fi Protected Access)】
WPA2（Wi-Fi Protected Access2）は、WEPに替わる暗号化技術WPAのバージョン2です。WPA2では、IEEE802.11iが採用した暗号化方式「AES（Advanced Encription Standard：高度暗号化規格)」が含まれており、IEEE802.11iの別称としてもこのWPA2が使われます。WPA2には、WPAとWPA2の混在した環境で利用できるミックスモードが搭載されています。

【802.1x認証】
無線ネットワークを確立する際に、認証サービスを受けるセキュリティ設定です。正しい認証キーでアクセスすると認証サーバが正規のユーザであることを承認し、通信が可能になります。企業内のネットワークで利用されます。

セキュリティ設定は、通信相手の機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。

1　画面右下の をダブルクリックし、「MIMO ネットワークモニタ」を起動します。

2　「AP 検索」タブをクリックすると接続可能なアクセスポイントの一覧が表示されますので、接続するアクセスポイントを選択し、［接続］をクリックします。

画面の［レポート］をクリックするとアクセスポイント一覧の詳細が表示されます。MIMO 機能が有効なアクセスポイントには「True MIMO」の欄に「yes」と表示されます。

アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合は ESSID が空欄で表示されます。

セキュリティの設定がされていない場合は、手順 4 にお進みください。

3 接続するアクセスポイントにセキュリティの設定がされている場合、セキュリティを設定する画面が表示されますので、必要な項目を入力し、［接続］をクリックします。セキュリティ画面についての詳細については、このPARTの「無線LANのセキュリティについて」（P.13）をご覧ください。

セキュリティにWPA2-EAPおよびWPA-EAPを使用する場合、RADIUSサーバに設定されている情報が必要です。接続の前にRADIUSサーバの管理者に問い合わせて、必要な情報を入手してください。

● WEPで接続する場合

次の図の①～④に必要な項目を入力し、［接続］をクリックします。

項目	内容
① WEP	WEPの暗号方式を選択します。「WEP64」（64Bit）か「WEP128」（128Bit）が選択できます。
② WEP Key	半角英数字の「0～9」および「a～f」を使用して任意の暗号キーを入力します。「WEP64」を選択した場合は10桁まで、「WEP128」を選択した場合は26桁まで入力できます。入力すると「*」の表示に変わります。
③ TX Key	使用する暗号キーを「1」～「4」の中から選択します。通常は「1」を選択してください。
④認証方式	認証方式を「Auto」、「Open」、「Shared」の中から選択します。通常は「Auto」を選択してください。

● WPA2-PSK/WPA-PSK で接続する場合

次の図の①と②に必要な項目を入力し、［接続］をクリックします。

項目	内容
①暗号化方式	暗号方式を選択します。「TKIP」か「AES」が選択できます。
②共有キー（パスフレーズ）	アクセスポイントに設定されている共有キーと同じ値を、8～63 桁の範囲で入力してください。

● WPA2-EAP/WPA-EAP で、認証方式に EAP TLS を使用して接続する場合

次の図の①～④に必要な項目を入力し、［接続］をクリックします。

項目	内容
①認証方式（802.1x）	一覧から「EAP TLS」を選択します。
②ログインネーム	RADIUS サーバに登録されているログイン名を入力します。
③証明書	RADIUSサーバに設定されている証明書を選択します。証明書はあらかじめお使いのパソコンにインストールする必要があります。
④サーバ証明書を有効にする	証明書を使用する場合にチェックします。

● WPA2-EAP/WPA-EAP で、認証方式に EAP TTLS を使用して接続する場合

次の図の①〜⑤に必要な項目を入力し、［接続］をクリックします。

項目	内容
①認証方式（802.1x）	一覧から「EAP TTLS」を選択します。
②ログインネーム	RADIUS サーバに登録されているログイン名を入力します。
③パスワード	RADIUS サーバに登録されているパスワードを入力します。
④サーバ証明書を有効にする	証明書を使用する場合にチェックします。証明書はあらかじめお使いのパソコンにインストールする必要があります。
⑤ TTLS プロトコル	認証に使用するプロトコルを選択します。「PAP」、「CHAP」、「MS CHAP」、「MS CHAP V2」が選択できます。

● WPA2-EAP/WPA-EAP で、認証方式に EAP PEAP を使用して接続する場合

次の図の①〜⑤に必要な項目を入力し、［接続］をクリックします。

項目	内容
①認証方式（802.1x）	一覧から「EAP PEAP」を選択します。
②ログインネーム	RADIUS サーバに登録されているログイン名を入力します。
③パスワード	RADIUS サーバに登録されているパスワードを入力します。
④サーバ証明書を有効にする	証明書を使用する場合にチェックします。証明書はあらかじめお使いのパソコンにインストールする必要があります。
⑤ TTLS プロトコル	認証に使用するプロトコルを選択します。「MS CHAP V2」と「TOKEN CARD」が選択できます。

4 手順1の画面に戻りますので、画面上に接続完了のメッセージが表示されているか確認してください。

以上で接続は終了です。

「Ad-Hoc」モードで通信するには

「Ad-Hoc」モードで通信するには、次の手順を行ってください。

1 画面右下の をダブルクリックし、「MIMO ネットワークモニタ」を起動します。

2 「AP検索」タブをクリックすると通信可能な相手が表示されますので、通信する相手を選択し、[接続]をクリックします。

メモ　**通信相手が Ad-Hoc モードの場合、一覧に表示されているアイコンが になります。**

3 「接続情報」の画面に切り替わりますので、画面上に接続完了のメッセージが表示されているか確認してください。

以上で接続は終了です。

メモ　**通信時に WEP のセキュリティを使用する場合は、「WEP で接続する場合」（P.15）をご覧いただき、設定を行ってください。**

セキュリティ一覧

本商品で設定できる WEP および WPA2/WPA の設定は次のとおりです。

● WEP…Infrastructure/Ad-Hoc 共通

認証方式	暗号方式	WEP 暗号強度
Open System（表記は Open）	無効	ー
	WEP	64Bit ー 16 進数（0 ～ 9 ／ a ～ f）10 桁
		128Bit ー 16 進数（0 ～ 9 ／ a ～ f）26 桁
Shared Key（表記は Shared）	WEP	64Bit ー 16 進数（0 ～ 9 ／ a ～ f）10 桁
		128Bit ー 16 進数（0 ～ 9 ／ a ～ f）26 桁

※ Open System…アクセスポイントに認証キーを通信させないで接続します。
※ Shared Key……アクセスポイントに認証キーを通信させて接続します。

● WPA2/WPA…Infrastructure の場合

認証方式	暗号方式	認証設定
WPA-EAP（エンタープライズ）	TKIP	EAP TLS
		EAP PEAP
		EAP TTLS
	AES	EAP TLS
		EAP PEAP
		EAP TTLS
WPA-PSK（パーソナル）	TKIP	共有キー
	AES	共有キー
WPA2-EAP（エンタープライズ）	TKIP	EAP TLS
		EAP PEAP
		EAP TTLS
	AES	EAP TLS
		EAP PEAP
		EAP TTLS
WPA2-PSK（パーソナル）	TKIP	共有キー
	AES	共有キー

PART 3

「MIMOネットワークモニタ」の画面について

本商品のユーティリティを起動するには、画面右下のタスクトレイ（通知領域）にある をダブルクリックします。

各画面共通の項目

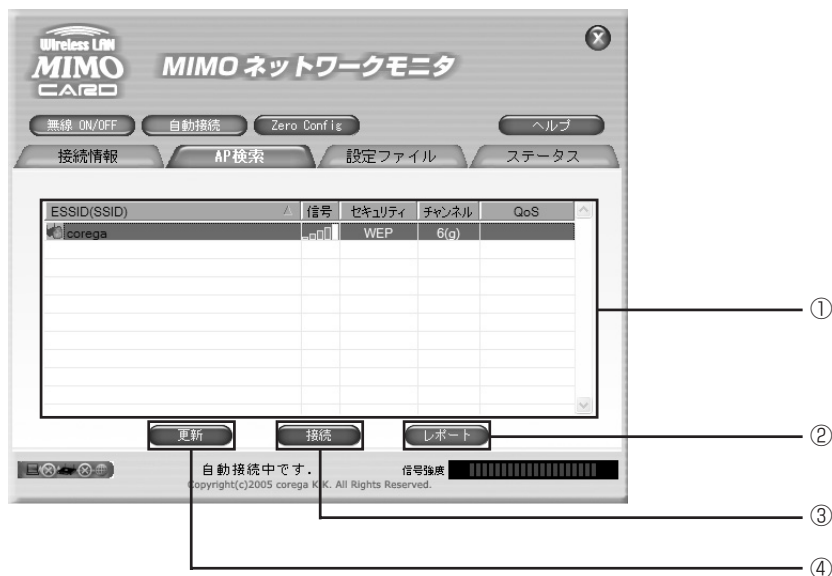
項目名	説明
①無線 ON/OFF	クリックごとに電波の ON（緑色）/OFF（青色）ができます。工場出荷時は ON に設定されています。
②閉じる	クリックすると、「MIMO ネットワークモニタ」を終了します。
③自動接続	クリックすると、パソコンが起動した時に、最後に接続した通信相手に自動で接続します。工場出荷時は ON（緑色）に設定されています。
④ Zero Config	クリックすると、「MIMO ネットワークモニタ」を使用せずに Windows XP標準のワイヤレスユーティリティを使用することができます。通常はON（緑色）にする必要はありません。工場出荷時は OFF（青色）に設定されています。
⑤ヘルプ	クリックすると、各画面のヘルプが表示されます。
⑥信号強度	電波の強さを表示します。緑の緑のバーが多いほど信号が高くなります。

「接続情報」画面

「接続情報」タブをクリックすると表示されます。また、起動直後もこの画面が表示されます。

項目名	説明
①接続状態	本商品の接続状態を表示します。
② ESSID（SSID）	現在設定されている ESSID を表示します。 ※工場出荷時の設定は「corega」です。
③接続モード	設定されている接続モードを表示します。
④認証状態	通信相手機器との接続状態を表示します。
⑤暗号化方式	現在設定されているセキュリティ設定を表示します。
⑥チャンネル	現在使用しているチャンネルを表示します。
⑦送信帯域	現在送信している送信帯域を表示します。
⑧アクセスポイント	接続するアクセスポイントの情報を表示します。
⑨ MAC アドレス	本商品の MAC アドレスが表示されます。
⑩ IP アドレス	本商品が接続されているパソコンの IP アドレスを表示します。
⑪信号強度	電波の強さを表示します。
⑫設定保存	クリックすると、現在の通信設定を保存します。保存した設定は「設定ファイル」画面で確認できます。

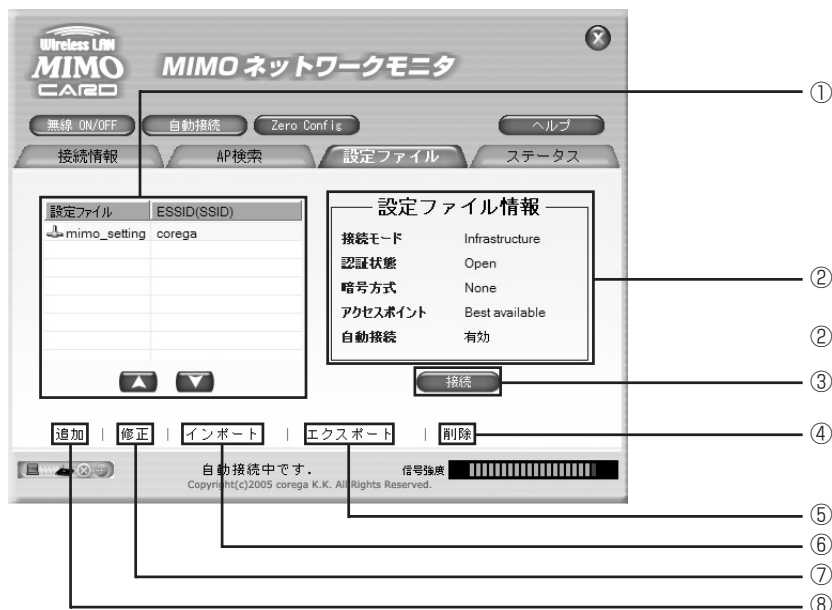
「AP検索」画面

「AP 検索」タブをクリックすると表示されます。

項目名	説明
① AP 一覧	接続可能なアクセスポイントの一覧です。一覧の詳細については次のページをご覧ください。
②レポート	通信相手の詳細な情報が表示されます。MIMO 機能が有効なアクセスポイントには「True MIMO」の欄に「yes」と表示されます。
③接続	AP一覧に表示されたアクセスポイントを選択後にクリックすると、アクセスポイントに接続します。
④更新	クリックすると、接続可能なアクセスポイントを再検索して表示します。

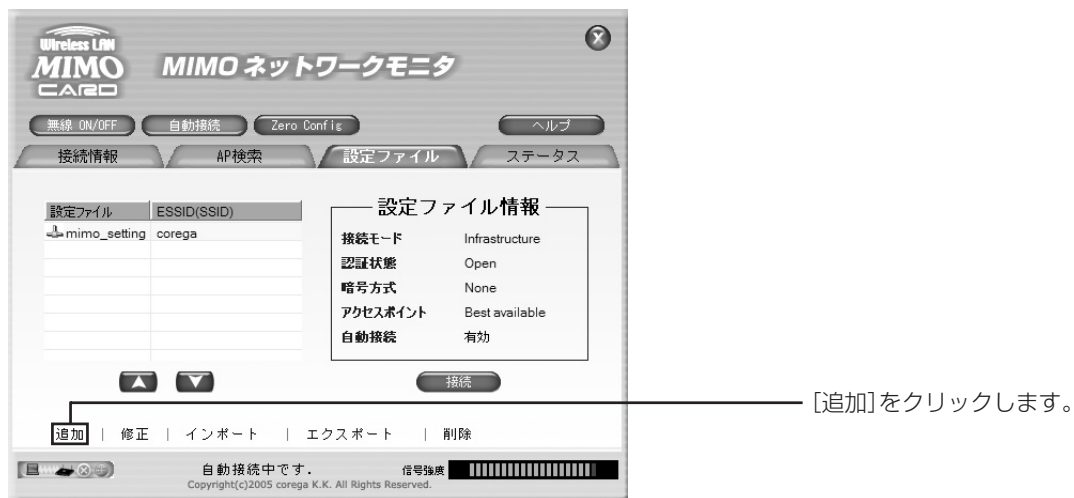
■アクセスポイント一覧の各項目

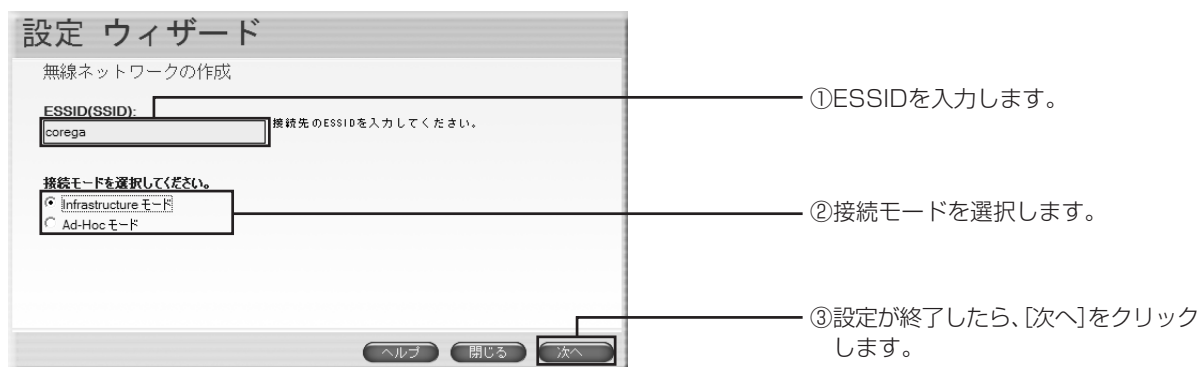
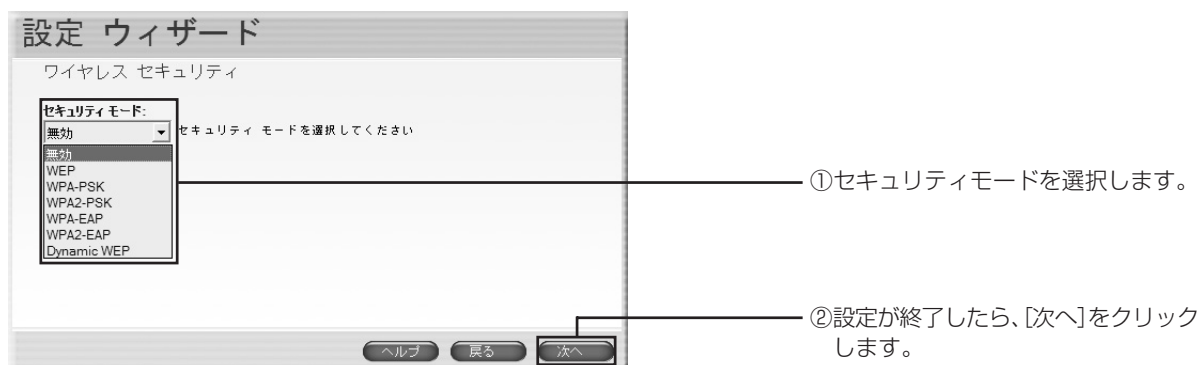
項目名	説明
① ESSID（SSID）	接続状態と無線ネットワークの ESSID を確認できます。 Ad-Hoc モードで接続可能な無線ネットワークです。 Infrastructureモードで接続可能な、セキュリティが設定されていない無線ネットワークです。 Infrastructureモードで接続可能な、セキュリティが設定されている無線ネットワークです。 ※通信相手にステルス機能が設定されている場合、一覧に ESSID は表示されません。
②信号	通信強度をアイコンで確認できます。緑のバーが多いほど信号が高くなります。
③セキュリティ	通信相手に設定されているセキュリティが確認できます。 無効 -------------------------- セキュリティ設定が設定されていない無線ネットワークです。 WEP ------------------------ セキュリティ設定でWEPが設定されている無線ネットワークです。 WPA2-PSK-------------- セキュリティ設定でWPA2-PSK（パーソナル）が設定されている無線ネットワークです。 WPA2-EAP -------------- セキュリティ設定でWPA2-EAP（エンタープライズ）が設定されている無線ネットワークです。 WPA-PSK ---------------- セキュリティ設定で WPA-PSK（パーソナル）が設定されている無線ネットワークです。 WPA-EAP ---------------- セキュリティ設定で WPA-EAP（エンタープライズ）が設定されている無線ネットワークです。
④チャンネル	設定されているチャンネルと無線LANの規格を確認できます。カッコ内が「g」の場合は IEEE082.11g が、「b」の場合は IEEE802.11b が設定されています。
⑤ QoS	アクセスポイントの QoS（Quality of Service）が有効の場合、QoS の種類が表示されます。

「設定ファイル」画面

「設定ファイル」タブをクリックすると表示されます。

項目名	説明
①設定ファイル一覧	「設定情報」画面の［設定保存］で保存した設定ファイルが表示されます。保存時につけた名称と、ESSIDが表示されます。設定ファイルが複数ある場合、一覧の下にある▲と▼をクリックすると、設定ファイルを選択することができます。
②設定ファイル情報	設定ファイルの情報が表示されます。
③接続	一覧に表示された設定ファイルを選択後にクリックすると、設定ファイル内に保存したアクセスポイントに接続します。
④削除	設定ファイルを削除します。
⑤エクスポート	設定ファイルを書きだすことができます。
⑥インポート	書きだした設定ファイルを読込みます。
⑦修正	設定ファイルの内容を修正します。ウィザード形式で設定しますので、変更したい内容に合わせて設定してください。
⑧追加	設定を追加して保存します。ウィザード形式で設定しますので、追加したい内容に合わせて設定してください。

■設定ファイルの追加方法

1 「設定ファイル」画面の［追加］をクリックします。

2 設定するファイルに名前をつけ、［OK］をクリックします。

3 「設定ウィザード」が表示されますので、図の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

4 セキュリティモードを選択し、［次へ］をクリックします。

メモ　**項目にある「Dynamic WEP」の接続方法については、このPARTのP.29をご覧ください。**

5 手順４で選択したセキュリティモードに合わせて各種項目を設定し、終了したら［次へ］をクリックします。

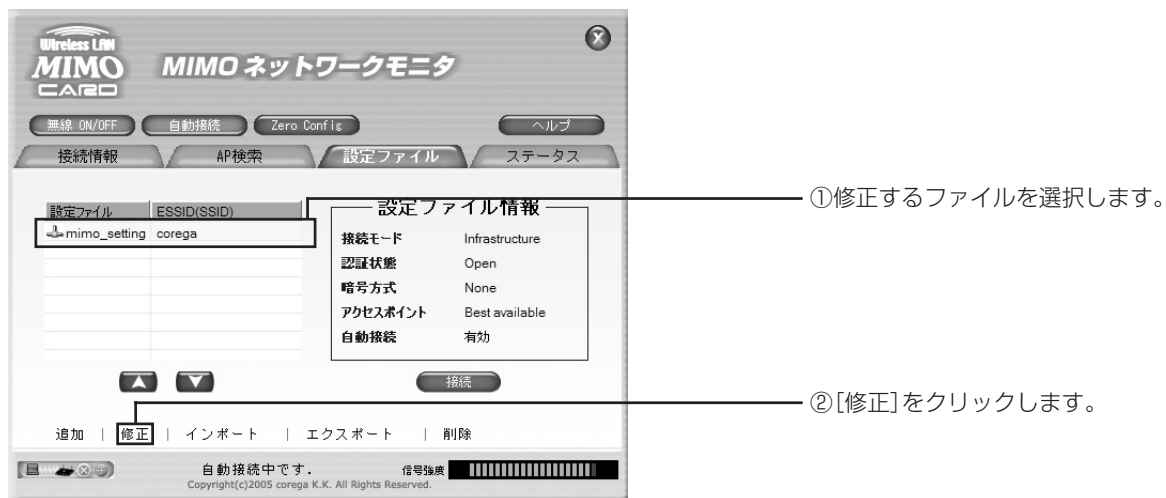
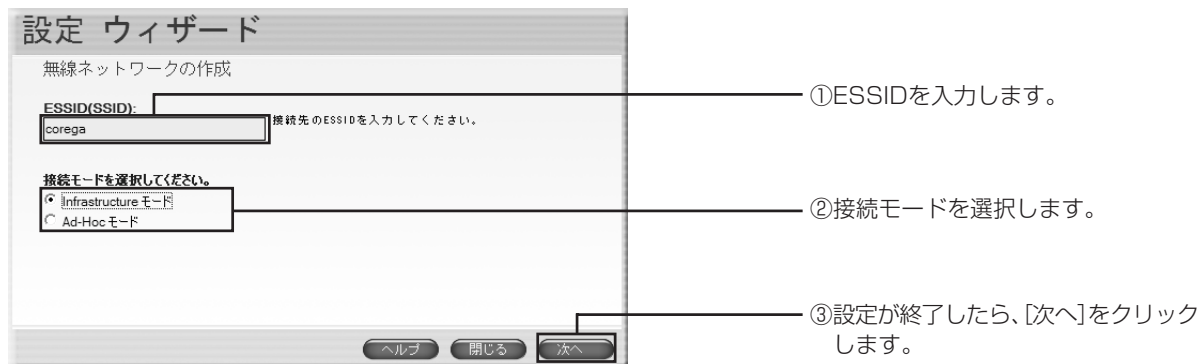
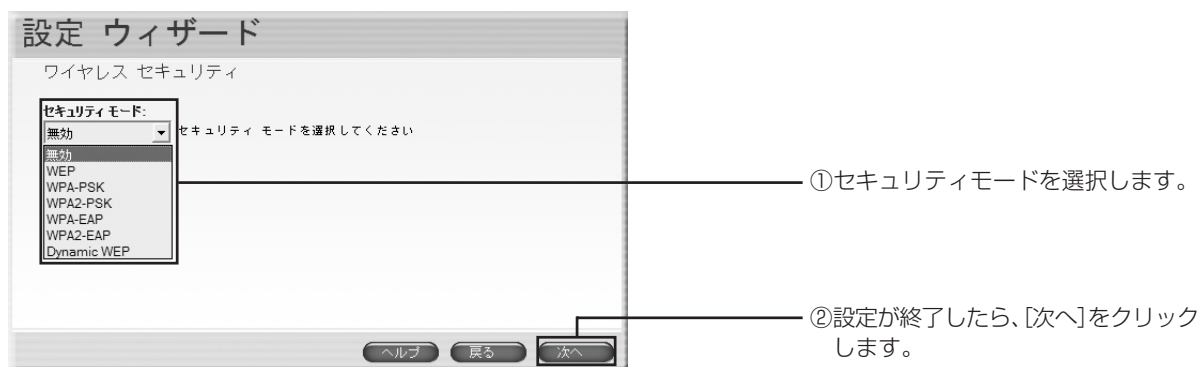
各項目の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」の「ネットワークに接続する」（P.13）をご覧ください。

6 設定内容を確認し、自動接続する場合は「接続先へ自動接続する」にチェックをつけて［保存］をクリックします。

7 ［接続］をクリックし、アクセスポイントに接続してください。

以上で設定ファイルが追加されました。

■設定ファイルの修正方法

1　「設定ファイル」画面で修正するファイルを選択し、［修正］をクリックします。

2　「設定ウィザード」が表示されますので、図の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

3　セキュリティモードを選択し、［次へ］をクリックします。

メモ　**項目にある「Dynamic WEP」の接続方法については、この PART の P.29 をご覧ください。**

4 手順３で選択したセキュリティモードに合わせて各種項目を設定し、終了したら［次へ］をクリックします。

各項目の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」の「ネットワークに接続する」（P.14）をご覧ください。

5 設定内容を確認し、自動接続する場合は「接続先へ自動接続する」にチェックをつけて［保存］をクリックします。

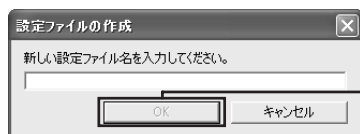
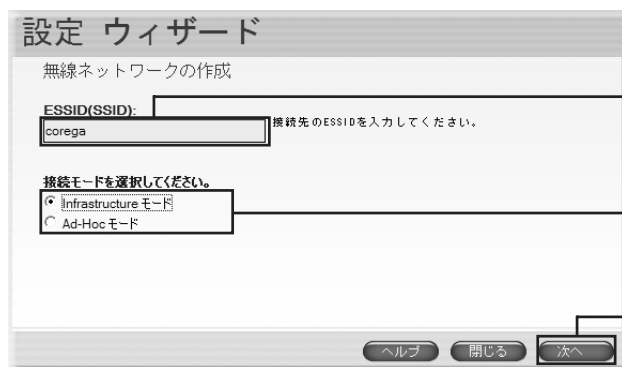
6 ［接続］をクリックし、アクセスポイントに接続してください。

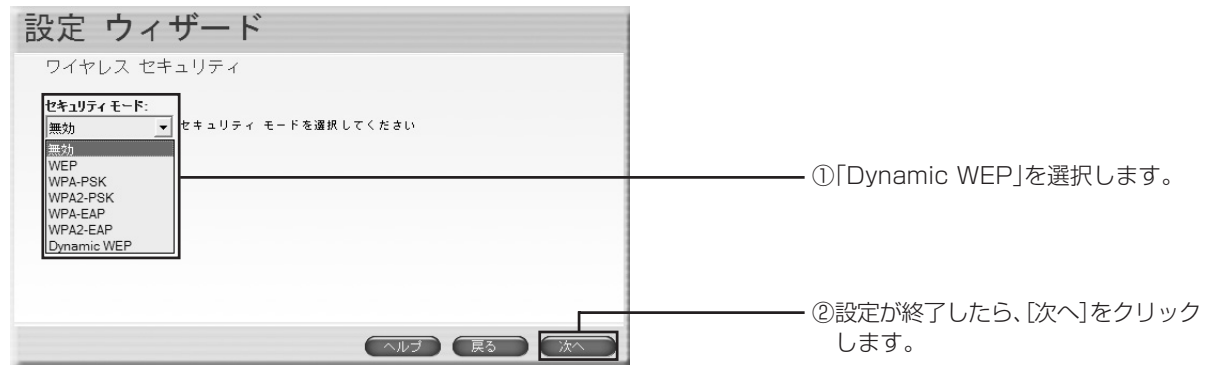
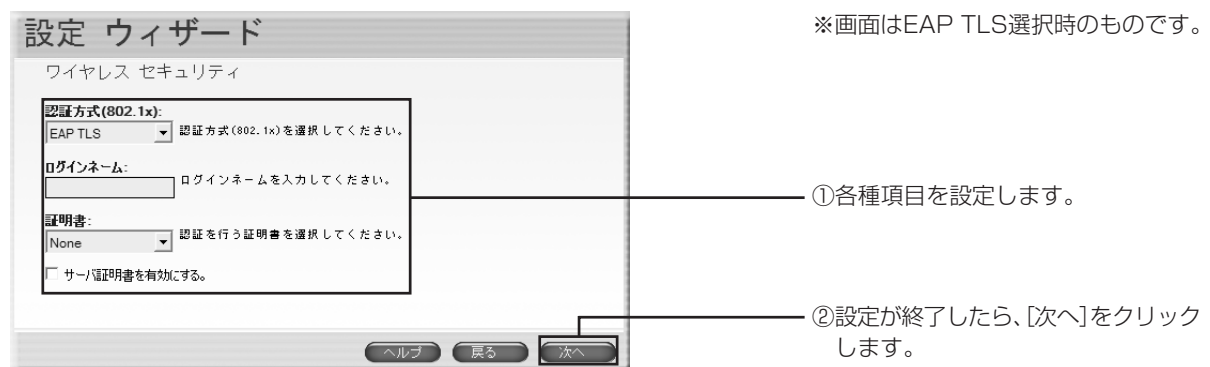
以上で設定ファイルの修正は完了です。

■Dynamic WEPについて

セキュリティモードの「Dynamic WEP」を使用する場合は、「設定ファイル」画面から［追加］をクリックして新規に設定してください。

本商品はセキュリティモードのひとつ「Dynamic WEP」に対応しておりますが、「CG-WLBARGM」や他の弊社製のルータおよびアクセスポイントは、「Dynamic WEP」に対応しておりません。また、「Dynamic WEP」についてはサポート対象外とさせていただきます。予めご了承ください。

1 「設定ファイル」画面の［追加］をクリックします。

2 設定するファイルに名前をつけ、［OK］をクリックします。

3 「設定ウィザード」が表示されますので、図の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

4 セキュリティモードから「Dynamic WEP」を選択し、［次へ］をクリックします。

5 各種項目を設定し、終了したら［次へ］をクリックします。

注意 **「Dynamic WEP」で接続するには、RADIUS サーバに設定されている情報が必要です。接続の前に RADIUS サーバの管理者に問い合わせて、必要な情報を入手してください。**

6 設定内容を確認し、自動接続する場合は「接続先へ自動接続する」にチェックをつけて［保存］をクリックします。

7 ［接続］をクリックし、アクセスポイントに接続してください。

以上で設定が完了しました。

「ステータス」画面

「ステータス」タブをクリックすると表示されます。

項目名	説明
①接続状態	無線通信に関する情報が表示されます。
②各種状態	本商品の各種情報が表示されます。マークは問題がない状態を表します。マークは問題がある状態を表します。
③バージョン	本商品のバージョン情報が表示されます。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

2005年10月　初版